



1. 奈良時代から平安時代へ

前号では、奈良時代の信仰について執筆させていただきました。本号では、平安時代に焦点をあてて、信仰の歴史をひも解いていきたいと思います。

平安時代になると都は平安京に遷都され、鎌倉に幕府が開かれるまでの約400年間、政治の中心として花開きます。また、貴族中心の政治から武士中心の政治へと変化していく時代でもあります。

平安京への遷都を進言したのは、和気清麻呂です。清麻呂は、宇佐八幡宮神託事件の際、宇佐八幡宮から再度お告げがあった神託を称徳天皇に報告した人物です。

信仰に関する主な出来事については、奥州（東北地方）の藤原清衡が中尊寺金色堂、藤原道長が平等院鳳凰堂など、豪華なお寺が建てられたのも特色です。また、最澄や空海が密教を伝え、平安時代末には、南無阿弥仏と念仏を唱えれば極楽浄土にいけると説いた法然の浄土教が広まる時代でもあります。

奈良時代ぐらいから、神道と仏教との垣

根が無くなる神仏習合という考えが広まります。その結果、お寺に神社の神様が祭られたり、逆に神社の中に仏像が祭られることもありました。

2. 飯隈山飯福寺とは

飯隈山飯福寺は、大崎町大字神領字飯隈にある熊野神社が飯隈山飯福寺の本社があった跡地だと伝わっています。明治時代の廃仏毀釈によって建物は壊されてしまいました。熊野神社の境内にある正観音像・如意輪観音像、鳥居前にある仁王像や参道沿いにある墓地は、飯福寺を偲ばせる名残です。

大崎町史で引用されている『三国名勝図会』では、和銅元年（708年）に修験道開祖役小角の弟子、義覚が、新熊野三社権現を勧請したのが始まりとされています。また、聖武天皇より勅願所の宣旨を受け、神領の地千石を支給したとも伝えられています。ただし、飯福寺は、京都天台宗聖護院の末寺であるため、平安時代に伝わった天台宗の時期を考えると、奈良時代に創建されたかは不明です。

参考文献

・『大崎町史』

・救仁郷断二（1951年）

・『読める年表・日本史』

株式会社自由国民社（1990年）

794年	桓武天皇が都を平安京（京都市中心部）に遷都する。
805年	最澄が日本に戻り天台宗を伝える。滋賀県と京都府の間にある比叡山に延暦寺を建てる。
806年	空海が日本に戻り真言宗を伝える。和歌山県高野山に金剛峰寺を建てる。
901年	菅原道真が大宰府に左遷される。
905年	紀貫之による日本文学『土佐日記』ができる。
996年	清少納言による日本最古の随筆『枕草子』ができる。
1008年	紫式部による世界最古の恋愛小説『源氏物語』ができる。
1016年	藤原道真が摂政となる。
1086年	白川天皇が上皇となり院政を開始する。
1105年	藤原清衡が中尊寺（金色堂）を建てる。
1167年	平清盛が武士で初の太政大臣になる。
1180年	治承・寿永の乱が始まる。（源平合戦）
1185年	壇ノ浦の戦いで源義経が勝利し、平氏が滅亡する。

図1 平安時代の主な出来事